# 新　刊　紹　介

七尾善麿：　**原色青森県海藻図鑑**　159頁。昭和55年9月1日発行。限定自費出版。頒価3,800円
（連絡先：　青森市大字筒井字桜川361-17，七尾善麿）

この図鑑は本学会々員，県立青森高校教諭である著者が約20年に亘って採集，観察を続けてきた青森県沿岸産の海藻のうち，比較的大型の緑藻22種，褐藻55種，紅藻127種の合計204種について標本写真191点，生態写真55点，その他4点を纒めたものである。本書は県内小，中，高校の理科教師の参考のために作られたものであり，各種の形態，生育時期，生育場所，産地名が簡明に記されている。巻末には青森県沿岸の海流，海藻の垂直分布，浅虫における年間の生育期，青森県産有用海藻の種類とその利用方法などが認されている。写真は鮮明で形態的な特徴はわかりやすい。種類の同定に関しては尚検討を要するものが2，3見受けられるが全体としてよくまとまった労作である。著者は県内で利用されることを目的としているが，日本北部の他地域においても広く参考になるものであり，又一地方の海藻図鑑が出版されることは少ないので本書が大いに活用されることが期待される。

（小樽商大　山田家正）

# 新 刊 紹 介

BOLD, H. C., ALEXOPOULOS, C. J. and DELEVORYAS, T.: **Morphology of Plants and Fungi.** 4th edition. x+819 pp. Harper & Row, New York. 1980.

著名な藻類学者の著書で植物学の教科書として1957年に発行された "Morphology of Plants" は1967年, 1973年に改訂されてそれぞれ第2版, 第3版が発行された。本書はその第4版となっているけれども, 標題は "Morphology of Plants and Fungi" と変更され, 著者も菌類学者の ALEXOPOULOS と古植物学者の DELEVORYAS を加えて3人の共著となって, 内容も第3版の668ページから約150ページも増加している。

BOLD に代表されるアメリカ学派の傾向は, 第3版においても植物を門 Division のレベルで細分化する方向であり, これはドイツの ENGLER 系のものと対照的であった。今回の第4版でもその傾向ははっきりしており最近の WHITTAKER らの 5 kingdom system の方向を全面的にとり入れて, 本書の標題を 'Plants and Fungi' としたのであろう。原核生物の取扱い, 用語は MARGULIS らのものと少し異なるところもあるが, 本書では動物 (原生動物を含む) を除く残りの生物群の大別として次の様な system を採用している。

Superkingdom I. Prokaryonta
- Kingdom A. Monera (細菌 Bacteria と藍藻 Cyanochloronta の2門を含む)

Superkingdom II. Eukaryonta
- Kingdom A. Phyta (Plantae: 緑藻 Chlorophycophyta など25の Division からなる)
- Kingdom B. Myceteae (Fungi: 粘菌 Gymnomycota, 鞭毛菌 Mastigomycota, 無鞭毛菌 Amastigomycota の 3 Division に分けられる)

各植物群の記述の形式は以前の版と大体同様で, 印象的な図や写真が多数あり, これも新しい, より適切なものと取換られているものもある。共著者の専門分野を反映してか, コケ・シダの部分と, 菌類の部分のページ数の増加が目立っている。その割には藻類の部分は改訂が少ないように思われる。

標題は「形態学」となっているとはいえ, 分類学の教科書として, 現在出版されているものの中でも, 最もよいものの1つであることは疑いない。(邦価 約7,700円)

(北大理　吉田忠生)

# 新 刊 紹 介

**藻類名詞及名称** 159 pp. 科学出版社, 北京, 1979, 0.80 元.

中国においても藻類学の研究が最近更に活潑化して来ており, 1979 年には中国藻類学会も創立された (藻類 **28**: 27 参照)。この様なときに英語の術語と学名を中国語と対照した小冊子が発行されたのは時宜を得ていることだろう。この学術用語集というべきものは 1964 年に朱浩然が編集した同じ名前の本を改訂したもので, 多数の研究者の協力の下に 2800 の学術用語と, 4300 の学名が集録され, 中国語と対比されている。

術語に関しては日本語と共通のものも多く, 字体の違いを考慮すれば比較的容易に理解できる。ラテン語の学名に対する中国名に関しては, 古来からあるものの他, 最近つけられたものも相当ある様で, 1962 年に発行された曽呈奎らの編集した「中国経済海藻志」(科学出版社, 北京) と比較するとよくわかる。藻類の名前に関してそのいくつかを以下に挙げてみる。中国においては簡字体の採用が進行しているので, 日本の活字で表記できないものもかなりある。よく似ていても字体の違うものがあり, それらは無視して日本の字で示す。

| | | |
|---|---|---|
| *Acanthopeltis japonica* | 日本刺盾藻 | ユイキリ |
| *Acetabularia calyculus* | 傘　藻 | ホソエガサ |
| *Achnanthes brevipes* | 短柄曲売(殻)藻 | |
| *Agarum cribrosum* | 孔叶(葉)藻 | アナメ |
| *Anabaena cylindrica* | 柱孢魚腥藻 | |
| *Bangia fuscopurpurea* | 紅毛藻 | ウシケノリ |
| *Batrachospermum moniliforme* | 串珠藻 | カワモズク |
| *Ceramium tenerrimum* | 柔質仙菜 | ケイギス |
| *Ceratium hirundinella* | 角甲藻 | エンビツノモ |
| *Chara braunii* | 布氏輪藻 | シャジクモ |
| *Chlorella vulgaris* | 小球藻 | |
| *Chondrus ocellatus* | 角叉菜 | ツノマタ |
| *Cladophora glomerata* | 団集剛毛藻 | カモジシオグサ |
| *Closterium acerosum* | 鋭新月藻 | |
| *Codium fragile* | 刺松藻 | ミル |
| *Ectocarpus confervoides* | 水　云 | ケナシシオミドロ |
| *Euglena caudata* | 尾裸藻 | |
| *Fucus evanescens* | 枯墨角藻 | ヒバマタ |
| *Gelidium amansii* | 石花菜 | マクサ |
| *Gigartina pacifica* | 太平洋杉藻 | イボノリ |
| *Glaucocystis nostochinearum* | 灰胞藻 | |
| *Gonyaulax spinifera* | 具刺膝沟藻 | |
| *Gracilaria verrucosa* | 江　蓠 | オゴノリ |
| *Halimeda opuntia* | 仙掌藻 | サボテングサ |
| *Laminaria longissima* | 長海帯 | ナガコンブ |
| *Laurencia obtusa* | 鈍形凹頂藻 | マギレソゾ |
| *Mallomonas helvetia* | 黄魚鱗藻 | |
| *Merismopedia minima* | 細小平裂藻 | |
| *Micrasterias apiculata* | 尖刺微星鼓藻 | |
| *Monostroma angicava* | 袋礁膜 | エゾヒトエグサ |
| *Navicula maculata* | 斑点舟形藻 | |
| *Oedogonium autumnale* | 秋熟鞘藻 | |

(北大理　吉田忠生)